

授業科目名	文献調査法
科目番号	0ATW21B
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春C 月7,8,木7,8
担当教員	森田 ひろみ, 李 昇姫, 大庭 一郎, 関 洋平, 村井 麻衣子
授業概要	近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探索し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。
備考	東京キャンパス開講；毎年,日本語で開講；方法論的基盤科目 0ATW213と重複履修不可。 0IMBE53と同一。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力 コミュニケーション能力 国際性 メディア専門知識 システム専門知識 リソース専門知識
授業の到達目標(学修成果)	(1) 多様な専門領域における情報源を知り、それらの分野の関連文献を探索し入手することができる。 (2) 多様な専門領域における文献を読む方法を学び、その内容を批判的に理解することができる。"
授業計画	(1) ガイダンス、実験心理学分野の文献探索(森田) (2) 実験心理学分野の文献講読(森田) (3) 図書館情報学分野の文献探索(大庭) (4) 図書館情報学分野の文献講読 (大庭) (5) 自然言語処理・情報検索分野の文献探索(関) (6) 自然言語処理・情報検索分野の文献講読(関) (7) 知的財産法分野の文献探索(村井) (8) 知的財産法分野の文献講読(村井) (9)感性情報・感性インタラクション・感性デザイン分野の文献探索(李) (10)感性情報・感性インタラクション・感性デザイン分野の文献講読(李)
履修条件	
成績評価方法	確認テストは行わない。それぞれの分野ごとに、講義内容に則した小テストの結果、あるいは到達目標に示された項目に基づき課されたレポートや発表等の内容に基づき評価する。レポートや発表等の評価項目は、サーベイのまとめ方、論文内容の正確な把握、批判的読み、建設的思考、表現力などとする。各分野の満点を20点とし、合計で100点満点中60点以上を合格とする。フィードバックについては講評等を授業中やmanabaにて行う。
授業外における学修方法	分野ごとに演習課題を出すので、指定された形式で提出する（学修内容をまとめて発表する形式、レポートにまとめて提出する形式、小テストに答える形式など）。課題の内容や提出方法・期限については、manabaで指示する。
教材・参考文献・配付資料等	一部の参考文献を下記に記す。その他の教材・参考文献・配布資料等、あるいはそれらに関する事項は manaba のコンテンツにすべて掲載する。授業資料は基本的に毎回掲載する。 J. Robens (2018). 学術界サバイバル術入門 Training 1：学術出版のすすめ Natureダ

教材・参考文献・配付資料等	イジェスト, Vol. 15, No. 3, 30-32. doi : 10.1038/ndigest.2018.180330
オフィスアワー等(連絡先含む)	森田 ひろみ 月曜日 午後 morita at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~morita 李 昇姫 総合研究棟D Leelab. Kansei Design 029-853-2858 lee.seunghee.gn at u.tsukuba.ac.jp http://kansei.design 大庭 一郎 月2限 7D113 iohba at slis.tsukuba.ac.jp 関 洋平 水11:00-11:30 7D213 yohei at slis.tsukuba.ac.jp https://cu.slis.tsukuba.ac.jp 村井 麻衣子 春学期 月14:00-15:00 秋学期 木14:00-15:00 7D506 myco at slis.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	オンライン（オンデマンド型）で授業を行う。実施ツールはMicrosoft TeamsおよびMicrosoft Stream (on SharePoint) を基本とするが、動画へのアクセスなども含めて各回の授業の情報は全てmanabaにて説明するので、第1回授業の2, 3日前にはmanabaを確認し、その後も指示に従いmanabaを確認すること。特定の分野に限らず、5分野全ての演習に取り組むこと。出席確認については、レポート提出や発表、小テストの解答などを期限内に行うことをもって出席とすることを基本とするが、これについても必ず事前にmanabaで確認すること。 「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。 https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/pdf/AI-20241114134800-1.pdf
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	実験心理学、図書館情報学、自然言語処理、情報検索、知的財産法、感性情報、感性インタラクション、感性デザイン